

4)極大粒小豆優良品種候補「十育122号」

十勝農業試験場 豆類第2科

1.はじめに

北海道における大納言小豆(大粒種)は、道南、道央を主産地として約5,000ha栽培されており、そのほとんどが「アカネダイナゴン」で占められている。生産期間中比較的高温に恵まれる道南地域等では登熟期も高温に経過するので小粒化し易く、「アカネダイナゴン」では粒大が大納言規格に満たない場合があり、極大粒種の育成が強く望まれていた。

2.育成経過

本系統は能登地方の極大粒種「能登小豆」に北海道の大粒種「早生大粒1号」を交配して育成した「十育106号」を母、韓国産の大粒種「清原春小豆」を早生多収系統「十育85号」に交配して育成した大粒系統「十系207号」を父として交配し、大粒因子を集積して育成したものである。

3.特性の概要

本系統は北海道ではじめての極大粒種(百粒重21.1g以上)で粒大は丹波小豆なみの一級品である。子実収量は「アカネダイナゴン」よりややまさり、道南地域で発生がみられるウイルス病にも強い特性を持つが、耐倒伏性が弱い欠点を有する。
開花期は「アカネダイナゴン」よりやや遅いが成熟期は同じ、中の晩である。
主茎長は「アカネダイナゴン」より長く、耐倒伏性は弱い。低温抵抗性は中の弱であり、落葉病抵抗性は「アカネダイナゴン」と同じ弱である。しかし、茎疫病抵抗性は中、ウイルス病抵抗性は強で、「アカネダイナゴン」より強い。
子実の外観品質は「アカネダイナゴン」と同等であり、加工適性も同等と思われる。

4.普及態度

道南地域およびこれに準ずる地帯の大納言小豆(「アカネダイナゴン」その他)におきかえて栽培し、道南産大納言の粒形向上を図る。本系統は「アカネダイナゴン」同様、アズキ落葉病に対する抵抗性が弱いので適正な輪作を行う必要があり、また、耐倒伏性が弱いので密植、多肥栽培は避ける。

表1 「十育122号」の育成地(十勝農試)における特性概要

系統名および品種名	早晩性		開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒伏 程度	主茎長 (cm)	莢数 (莢/株)	子実収量 (kg/10g)	アカネダイ ナゴン比 %
	開花期	成熟期							
十育122号	中の晩	中の晩	8.5	(10.2)	多	60	34	257	105
アカネダイナゴン (対象)	中	中の晩	8.4	(10.2)	少	47	46	245	100
エリモショウズ (参考)	中	中の早	8.4	(9.29)	中	57	42	296	121

系統名および品種名	百粒重 (g)	品質 (検査 等級)	低温 抵抗性	落葉病 抵抗性	茎疫病 抵抗性	ウイルス病 抵抗性	種皮 歩合
十育122号	24.4	3下	中の弱	弱	中	強	低
アカネダイナゴン (対象)	18.0	3下	中	弱	弱	弱	低
エリモショウスズ (参考)	14.7	3上	中	弱	弱	弱	中

注)昭和61～63年の平均であり、成熟期の項()内は、昭和61、63年の平均。

表2 「十育122号」の適地(道南農試)における試験成績

系統名および品種名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒伏 程度	主茎長 (cm)	莢数 (莢/株)	子実収量 (kg/10a)	アカネ ダイナ ゴン比(%)	百粒重 (g)	品質 (検査 等級)
十育122号	7.27	9.12	少	46	34	262	104	26.1	4上
アカネダイナゴン (対象)	7.27	9.12	微	42	43	252	100	17.9	4中
エリモショウスズ (参考)	7.26	9.10	微	46	46	291	115	13.4	3中

注)昭和62,63年の平均